

# アガパンサス

東海教区 女性会  
第20期 第2号  
発行者 鈴木貴美子  
編集 牧 摂  
印刷 名古屋めぐみ教会



## 主　題 「キリストが望んでおられる」 一生かされる喜びと祈り—

**主題聖句** キリストと結ばれる人は誰でも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。  
(第2コレント 五章 1-7節)

## 巻頭言 「イエスを愛する人たちの幸い」



岐阜・大垣教会牧師 東海教区教区長  
斎藤幸二

わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦労が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです。(1コリント 15:38)

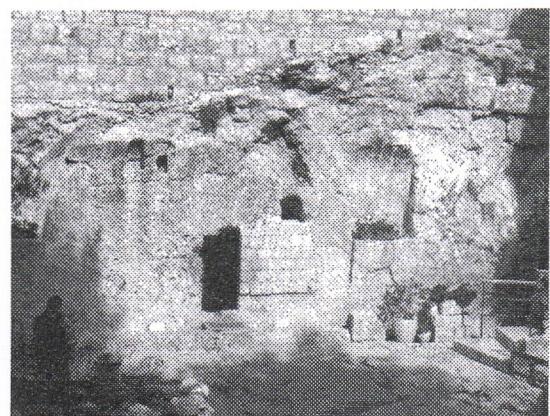
私たちは弱い人間ですから、先のことが分からずに愚かなことをしてしまうことがあります。十字架に死なれ、墓におさめられたイエス様の体に香料を塗るため、安息日の次の日の夜明けを待って墓に急いだ女性たちもそうでした。墓に行ったからといってローマ兵の厳重な警護の下にある墓の大きな石をどのようにして動かすのでしょうか。見通しの立たないまま女性たちは墓に向かって急いだのです。彼女たちのしようとしたことは計画性のない愚かな行動にしか見えませんでした。それはただひたすらにイエスへの愛に動かされた行動だったのです。

しかし彼女たちが目を上げて見たものは転がされた墓石であり、空になった墓でした。さらに彼女たちは天使からイエス復活の知らせを聞き、次いで復活のイエスご自身と出会ったのです。彼女たちはこの世界に最高の知らせをもたらした最初の人々になりました。私たちを愛して死なれた方が死に打ち勝って今も生きておられる、という喜びの知らせです。

この女性たちの用意した香油は無駄になりました。しかし神様の大きなご計画の中では彼女たちの行為は無駄には終わりませんでした。徒労に見えたことがかえって最も輝かしい務めを果たすことになったのですから。

このように、主イエスを愛して主に仕える人々の労苦は決して空しく終ることがありません。神様がその業を祝福し用いられるからです。イエスを愛する人たちの幸いがここにあります。

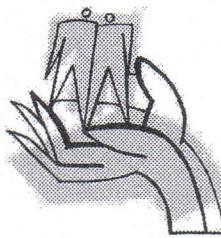
イエス様を愛し、仕えておられる教区女性会の皆様の上にも神様の祝福がありますように。



園の墓

## あゆみの家 42歳

社会福祉法人 あゆみの家  
総合施設長 田口道治

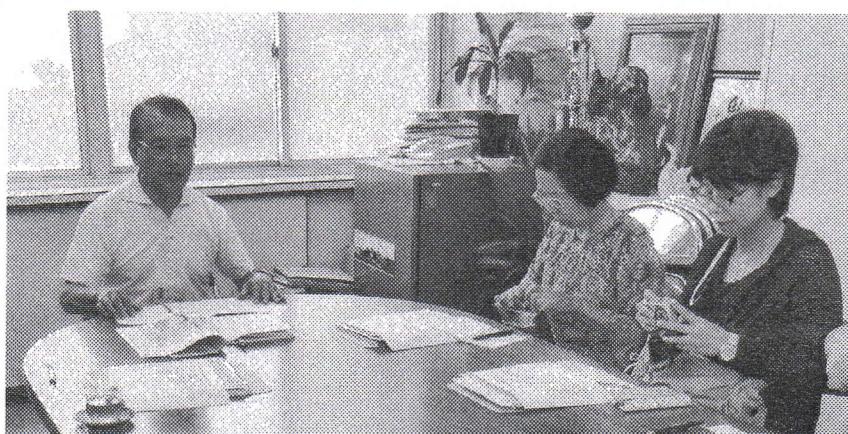


1971年に数名の大垣ルーテル教会会員の祈りで起こされたあゆみの家も、まもなく42年が経とうとしています。当初は、岐阜県大垣市の西隣の町・垂井町に、障がいのある3名の子どもたちの通園施設として始められ、現在では垂井町と大垣市に通所事業所6カ所、入所施設1カ所、グループホーム10カ所、ホームヘルプ事業所1カ所、相談支援事業所1カ所、就業・生活支援センター1カ所と、多くの障がいのある人たちの生活や活動、療育や就労を支援することができるようになりました。（利用者総数約170名、職員総数約130名）

昨年（2012）7月には大垣市の中心地域、船町に喫茶店リサイクルのお店「とうだいまえ」をオープンしました。松尾芭蕉の奥の細道結びの地として名高い同地は、川湊跡があり、「住吉灯台」という江戸時代の名残を留める昔ながらの灯台が保存される大垣市民憩いの場所でもあります。近くには「芭蕉記念館」もあり、昨秋には遠く横浜や埼玉からの来訪者が「とうだいまえ」にも足を運んでくださいました。「とうだいまえ」が近隣住民の皆さまの休息の場として大いに活用され、障がいのある人たちが地域住民の一人として誇りを抱いて働けるお店に成長していくよう願っているところです。喫茶店の隣室にはリサイクルのお店があり、最近は市民の皆さまから寄せられる献品も多くなり、売り上げも徐々に増えてきました。女性会の皆さんにも、大垣方面にお越しの時には是非とも「とうだいまえ」にお立ち寄りいただければと思います。

あゆみの家の創設者の一人であるジョン・ボーマン牧師が天に召されてから、来る3月には9年目を迎えようとしています。ボーマン牧師が大切にされた祈りは、今も、通所施設「ディセンターあゆみの家」や入所施設「第二あゆみの家」の職員や利用者の朝のディヴォーションにより、日々、欠かすことなく続けられています。

あゆみの家をさらに詳しくお知りになりたい場合は、ホームページをご利用下さい。  
URL <http://www.mirai.ne.jp/~ayumi>



## 愛唱讃美歌を変えられた集会

角田育代姉のバイオリン演奏に涙し、帰宅車中、何度も心の中で賛美したあの日。

罪とが憂いを とり去りたもう

心の嘆きを 包まず述べて

などかは下さぬ 負える重荷を

あれもこれも祈り願った日々、主なる神を信じて祈っていたつもりの心に、主の御声を聞いた。主は全てご存知。祈る前から聞いて下さっていること、道を備えて下さることを知らされ、心に安らぎを与えられた。集会に感謝。

まきばの家のプレゼントを楽しく2枚作成。作り方、材料など全部揃えて下さった役員さん方に感謝。

(高藏寺 福井富子)



10月に開かれた地区女性会は、御恵みに満ちた会でした。

バイオリニスト角田育代姉による讃美的曲の数々は美しく、演奏の間に話された証しは、神様の御働きかけと、御導きを強く示すものでした。明るく、生き生きとした姉の姿は正しく、今期女性会の主題「生かされる喜びと祈り」そのものを表していらっしゃると思いました。

午後のボランティア活動の報告では、長い年月、続けてこられたお働きの様子を具体的に話され、信仰に基づいた奉仕の姿を教えられました。

この集いを通して沢山の糧を与えられ感謝しております。

(名古屋めぐみ 犬飼佐智子)



昨年10月27日（土）名古屋めぐみ教会で「女性会の集い」行われました。84名の参加者でした。参加してくださった方に感想をお願いしました。



昨年の10月27日「女性会の集い」が名古屋めぐみ教会で角田育代姉をお招きして開催されました。

徐々に視力を失っていましたが、バイオリンの勉強の為オーストリアに渡った時、美味しいお料理に惹かれて行った友人宅で、聖書を学ぶことになったいきさつ等を、とても素直な言葉で語ってくれました。讃美歌「いつくしみ深き」から始まり、何曲も聴かせていただき、視力を失い、たくさんの苦労をされたはずなのに・・・。

この集会の少し前にご両親が受洗に導かれ、彼女の口からは喜びが溢っていました。彼女の明るい語りとバイオリンの響きに、私たちも熱くこみあげる感動がありました。会の終了後には、彼女の周りを大勢が取り囲み、「うちの教会にも・・・」との問い合わせがたくさんありました。私ももっとお聞きしたいと心から思いました。

彼女と多くの方々との出会いがありますようにと祈ります。

(名古屋めぐみ教会 黒野春枝)

2012年10月27日、名古屋めぐみ教会で「第1回 女性会の集い」が開催され、私も出席させていただきました。たくさんの方が出席されていました。

午前は角田育代姉の、「バイオリン演奏と証し」がありました。ヨーロッパ留学中の思い出や、ご両親が受洗された時のお話など、ユーモアを交えながらお話しされ、楽しく聴かせていただきました。バイオリンの演奏が素晴らしい、心温まる演奏会でした。

お昼はお弁当と、手作りのお菓子をおいしくいただきました。

午後は、なごや希望教会、自由ヶ丘礼拝所の坂井茂子姉と、栄光教会、焼津礼拝所の菅野君江姉が「ボランティア活動と証し」のお話をされました。菅野姉は障がい者施設でズボンの裾の直しなど、繕い物のボランティアを続けておられます。坂井姉は、東日本大震災で被災された方へ、キルトを贈る活動をしておられるとのお話をしました。お二人が、社会を支える活動をしておられる姿に胸が熱くなりました。

「女性会の集い」に出席させていただいて本当に良かったと思いました。感謝いたします。

(刈谷 福田正美)

## 合同役員会に出席して

鈴木貴美子

連盟役員と教区会長が集まり、第22期女性会連盟合同役員会が11月21日に東京教会で開かれ出席いたしましたのでご報告いたします。

この会へ出席するにあたり、各教会の皆様にはアンケートにご協力いただきありがとうございました。おかげさまで皆様のご意見、ご提案を東海教区としてお届けすることができました。会では出されていたそれぞれの議題について、また今後の女性会のことについて話し合いました。朝早くから打ち解けた雰囲気の中で話し合いができ、豊かな交わりの時が持てました。

話し合った主な内容は、《・各教区の活動報告　・次期総・大会開催地について　・連盟役員の選出方法と任期について　・小委員会制度の導入について　・サバ神学校支援被災地支援について》でした。会議の内容は別途ご報告いたします。

連盟役員の方も4人体制になり和やかに連盟のお仕事に取り組んでいらっしゃいます。これからは連盟担当の寺嶋文世姉を通して会員皆様の声をお届けし、連盟との絆を作っていくらいいなと思っています。



当日、東京教会では「牧師カフェ」がロビーで開かれていました。第1と第3水曜日に福祉作業所の方々が作ってくださったパンやお菓子が一緒に販売されていて、私もおいしくいただきました。東京教会は新大久保駅の近くにあり、韓流のお店が並ぶたいへんにぎやかな場所にあります。その大勢のひとごみの中、「こんにちは！」と声をかけられて振り向くと大会でお見かけした覚えのある九州と北海道の会長の方でした。人ごみの中でも信仰を共にする姉妹はすぐわかるんだとびっくりしました。



一日に何度も、祈りが必要だと感じてください。

そして、労を惜しまず祈って下さい。

祈ることで、神ご自身を賜物として心に抱けるほど、心が大きくなります。

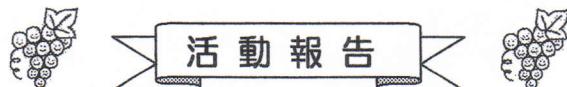
たずね、求めなさい。

そうすれば、あなたの心は神を受け入れられるほど大きく成長し、

神を自分自身のものとして心に

抱き続けることができるようになるでしょう。

(マザー・テレサ)



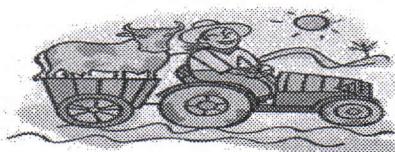
### — あゆみの家を訪問 —

9月8日、教区役員になった私たち5名は岐阜県垂井町にある「社会福祉法人あゆみの家」を訪ねました。当日は斎藤真理子さんの案内で、まず障害者支援施設第二あゆみの家に伺い、田口道治総合施設長からその歴史や現在の事業・活動内容などのお話を聞きすることができました。

あゆみの家は「キリストがおられる処」という意味を持ち、全ての人は尊い存在であり困難な状況にある人に手を差し伸べるという信仰を源に、1971年ジョン・ボーマン牧師（2004年死去）によって活動がはじまりました。

2011年に創立40周年を迎え、現在では知的障がい児・者や高齢者を中心に約20の施設を持つ福祉法人となり、生活支援・日中活動支援・地域生活支援などのサービスを提供しています。今年7月には交流の場となる喫茶・リサイクルショップ「とうだいまえ」がオープンし、私たちも美味しいケーキとコーヒーをいただきました。今後さらに必要となる福祉の取り組み。これからも活動を支援していきたいと思います。  
(真木 雅子)

### — ディアコニア夏祭りバザー —



皆さんに協力していただいた献品を夏祭りで販売しました。役員とともに5名の女性会の姉妹にご協力いただきました。地域の方や入所者家族の方を招き、入所者と交流を図ることが、夏祭りの大きな目的です。売り上げは2万円ほど、半分は福祉村、半分は震災支援。施設のスタッフの浴衣姿がすてきでした。  
(鈴木 貴美子)

### — まきばの家の収穫感謝祭 —

11月17日に行われた収穫感謝祭に行ってきました。牧場で収穫した野菜、牛乳、卵などを使って子供達とスタッフで料理を作ってくれました。子供達が通っている学校関係者やお世話になっている方々が招待されていました。そして子供達が感謝のことばを伝えました。松田施設長が「育ったのは野菜だけでなく、私達の心と体を育てくれました。」と挨拶されました。

(寺島 文世)

### — クリスマスプレゼントをお渡しました —

12月22日 雨の中を大きなバックと紙袋を持って、電車に乗りました。この荷物の中には、東海教区女性会の「まきばの家」の子供達へのクリスマスプレゼントが入っています。

会長の鈴木貴美子姉、役員の寺嶋文世姉とプレゼントの袋詰めをしました。中身はフェルトの手袋、お菓子、カード、ちょっとした小物を入れ30ヶ作りました。お昼過ぎ、「まきばの家」のスタッフ松田麻美子姉、山内恵美姉にお会いしプレゼントを渡しました。「24日、子供達に分けます。」との事でした。

お正月は、子供達の半分は自宅に帰れないそうです。収穫感謝際の折お会いした笠原保育園の園長先生が「ここの子供達はスタッフが良くしてくれるので、幸せですよ。」と言っていた言葉を思い出しました。新しい年、「まきばの家」の子供達、スタッフの方々に神さまの祝福がありますように祈らずにはいられませんでした。皆様のご協力を感謝致します。  
(大瀧 清子)

## 今後の予定

## 会長会

- ・日時 4月20日（土）
- ・場所 挙母教会（愛知県豊田市）
- ・時間 午前10時受付、10時半開始
- ・午後から社会福祉法人「オンリーワン」（豊田市）の訪問を考えています。詳細は後日お知らせします。



あゆみの家訪問

福祉村バザー&amp;クリスマス



## ◇編集後記

昨年、職場の駐車場でアガパンサス花を見つけました。表紙に使えるように写真を撮っておこうと考え、のんびり満開を待っていたつもりが、気がついた時には花が終わっていました。今年こそ、必ずや写真に収めて次回の本紙の表紙にしようと思います。（S.M.）